

全員入院を見直し

「コロナ対応首相「国内に重点」」

岸田文雄首相は4

日、三重県伊勢市で年頭記者会見を行い、新型コロナウイルス対応について、「最悪の事態が生じる可能性に備えるため」として、これまでの水際対策の骨格を維持しつつ、国内対策に重点をうつす準備を始めると表明しま

した。

岸田首相は、オミクロン株の市中感染が全国各地で発生していることを受け、「自治体の判断で陽性者を全員入院、濃厚接触者を全員宿泊施設待機としている現在の取り組みを見直す」と発言。全員入院・待機から、宿泊・自宅療養を組み合わせる方針への見直しを明らかにしました。

また、緊急事態宣言など行動制限を伴う要請については、さまでまな体制をしっかり機能させることが最優先だとしたうえで、「病床がひっぱくある」とが見込まれる場合は、行動制限の強化も機動的に考えなければならぬ」と述べました。

記者から「GO TO O」事業への対応を問われると、「オミクロン株等への対応に万全を期していく。これが最優先だ」と述べ、「順番をしつかり間違えず物事を進めたい」と専門家の意見や年末年始の状況を確認しながら慎重に考えていくとした。

加えて、岸田首相は

17日召集予定の通常国

会前の外遊を見送ることを明らかにしました。米国、オーストラリアへの訪問を検討していましたが、国内外での新型コロナ感染拡大を踏まえ、「国内のコロナ対策に万全を期すため、(外遊を)行わないこととした」と語りました。

首相はバイデン米大統領との会談のため早期内閣に意欲を示していましたが、調整は難航。代わりに、豪州訪問を探っていました。今月開催予定だった核不拡散条約(NPT)再検討会議出席のための訪米案も浮上しましたが、昨年末に見送りを表明していました。